小学校　国語

問題四2（1）

目的に応じた記述　通過率 41.5%

ふと気づくと、勇一は大きな木の根元にたおれていました。起き上がって辺りを見わたしても、さっきまでの美しい花畑はどこにもありません。見たこともない森が広がっています。勇一はとりあえず歩き出しましたが、どこへ行っていいか分かりません。辺りは暗くなってきました。①なみだが出そうになって、そのとき、声をかけてくれました。

(1)　西川さんは、【物語の下書きの一部】の中の①なみだが出そうになって、そのとき、声をかけてくれました。を、だれがしたことかが伝わるようにつなぎ言葉を使って二つの文に分けることにしました。次の【注意】にしたがって書きましょう。

【注意】
○　主語をそれぞれ入れて、ア・イの［　　］の中に一文ずつ書くこと。
○　主語は、「勇一」または「女の子」を使うこと。

ア　［　　］
イ　そのとき、［　　］

解答類型		割合（%）
○	（例） 勇一はなみだが出そうになりました。 （そのとき，）女の子が声をかけてくれました。	41.5
×	主語は補えているが，「…出そうになって」で文を分け，二文にしていない。	5.1
×	「女の子」という主語は補えているが，「勇一」という主語を補えておらず，「…出そうになって」で文を分け，二文にすることもできていない。	3.8
×	「女の子」という主語は補えているが，「勇一」という主語を補えていない。文を分け，二文にすることはできている。	3.5
×	「…出そうになって」で文を分け，二文にすることはできているが，主語が補えていない。	1.6
×	上記以外の解答	33.1
―	無解答	11.4

依然として課題です！

平成 27 年度 54.4% → 平成 28 年度 41.5%

この問題は，まず動作の主体が誰なのかを文脈から判断することが必要である。「なみだが出そうになっ」たのは誰なのか，「声をかけてくれ」たのは誰なのかを文脈から理解した上で，それぞれの主語を補って，一文を二文に分けなければならない。誤答を見ると，文を分けることと，適切な主語を補うことのどちらにも課題があったことが分かる。

内容の系統

第１・２学年 伝国イ（カ）
・主語・述語の関係

第1・2学年　書くことウ
　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと。

第3・4学年　書くことウ
　書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

第5・6学年　書くことウ
　事実と感想，意見などとを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

提案　主述の関係や文のつながりを意識して書く必然性のある言語活動を通して指導しましょう。

○　主述の関係や文と文とのつなぎ方を取り出して指導することも必要ですが，それらを意識して書く必然性のある言語活動を通して指導していくことが大切です。例えば，今回の問題のように，物語を書く活動の中で，児童が書いた文章から課題のあるものを取り出し，何がどうおかしいのかを考えさせた上で，個々の文章を見直させるような学習を仕組むことなどが考えられます。

○　また，それ以外の授業でも，文章を書かせた際には，主述のねじれや文のつなぎ方などについて継続的に指導していきましょう。日々の積み重ねが大切です。